

北斎・広重 大浮世絵展

—巨匠対決！夢の競演 あなたはどっち派？—



葛飾北斎《富嶽三十六景 神奈川沖浪裏》
—「北斎・広重 大浮世絵展」より—

■ 実資が記した『小右記』と源氏物語の世界
【前田育徳会尊経閣文庫分館】

■ 歌、ものがたり【古美術】

■ 特別展示 みんなでたのしむびじゅつかん
おおきい・ちいさい【近現代工芸】

■ 優品選【近現代絵画・彫刻】

- 展覧会回顧 宗雪・相説
- 9月の行事予定
- 新コンテンツ「デジタルお土産」
- ミュージアムレポート 友の会限定バックヤードツアー
- 学芸室こぼれ話
- 友の会ツアー参加者募集
- アラカルト ただいま展示中

企画展(第7～9展示室) 北斎・広重 大浮世絵展

—巨匠対決！夢の競演 あなたはどっち派？—

主催／北陸中日新聞、石川テレビ放送、石川県立美術館 後援／石川県、金沢市、金沢市教育委員会、NHK金沢放送局

特別協賛／アルスコンサルタンツ、東海東京証券 監修／中右 瑛(国際浮世絵学会常任理事) 企画協力／ステップイースト

9月6日(土)～10月5日(日) 会期中無休

葛飾北斎(1760～1849)は「富嶽三十六景」に代表される、巧みな線による大胆な構図と、北斎色といえる象徴的な色使いによる独創的な画風で森羅万象を描きました。一方の歌川広重(1797～1858)は、名作「東海道五拾三次之内」を世に送り出した浮世絵師です。卓抜した画面構成はあくまでも人間を主役とし、抒情に満ち躍動感あふれる風景画は、後期印象派の画家たちを魅了しました。

本展では、日本有数の浮世絵コレクター・中右瑛氏所蔵の名品から、北斎の「富嶽三十六景」、広重の「東海道五拾三次之内」という二人の代表作をはじめ、「忠臣蔵」「東海道五十三次」といった二人が共通するシリーズもの、役者絵、妖怪絵、滑稽絵など約200点で幅広くご紹介します。ただの展示ではなく、「名所」というテーマのもと北斎・広重、二人が描いた日本各地の風景画を比較展示したり、浮世絵の流通・制作には欠かせなかった「版元」に焦点を当てた作品展示など、テーマ別の対決形式で紹介し、江戸時代を代表する二人の絵師の魅力が存分に伝わる展示内容になっております。会場ぜひ、浮世絵の世界を堪能してください。

◆観覧料

一般…1,400(1,200)円

高校・大学生…900(700)円

小・中学生…600(400)円

※()内は前売り・20名以上の団体料金

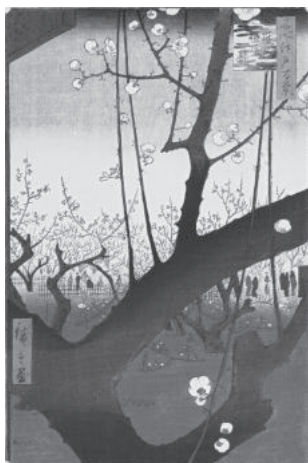
※未就学児無料



葛飾北斎《富嶽三十六景 凱風快晴》



歌川広重《東海道五拾三次之内 日本橋 朝之景》



歌川広重《名所江戸百景 亀戸梅屋舗》

※石川県立美術館友の会会員は会員証を提示で本人のみ団体料金で入場可、石川県立美術館優待券をお持ちの方は優待券を提示で本人のみ無料で入場可。

※身体障がい者手帳、療育手帳、精神障がい者福祉手帳、ミライロIDをご提示の場合は、ご本人様は前売り料金で入場可、付き添いの方1名は観覧無料。

※本展は、石川県立美術館の単独主催ではないため、右記以外の通常、美術館で適用されている各種割引／優待は対象外です。

※2階コレクション展は半券提示で観覧料が割引(団体料金になります)。

◆関連イベント

記念講演会「北斎と広重 二大巨匠の挑戦」

江戸時代を代表する北斎と広重の名品をポイント解説しながら、浮世絵の魅力について考察します。

日時…9月6日(土)開演13時30分(開場13時)～15時終了予定

講師…川崎浮世絵ギャラリー学芸員 山本野理子氏

会場…石川県立美術館 ホール

定員…先着約200名

※聴講無料。ただし、本展の観覧券(観覧済み半券可)が必要です。

お問い合わせ…北陸中日新聞事業部076-233-4642
(平日10時～17時)

古美術(第2展示室)

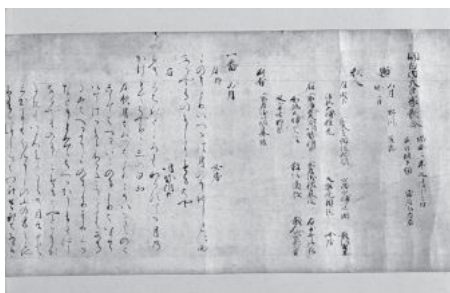
歌、ものがたり

8月23日(土)～10月5日(日) 会期中無休

日本の歴史上もっともすぐれた歌人は誰でしょう。もちろん諸説ありましようが、誰しもがその偉大さを認め、歌聖とまで呼ばれた歌人といえば、柿本人麿です。代表歌には「ほのぼのと明石の浦の朝霧に島隠れ行く舟をしぞ思ふ」「東の野にかぎろひの立つ見えてかへり見すれば月傾きぬ」などが挙げられます。『古今和歌集』の序文において「歌の仙」と呼ばれた人麿は、以降だんだんと神格化されていき、平安時代には「人麿影供」という儀礼が始まりました。これは歌道の繁栄を祈って、人麿の画像を掲げて供え物をし、その前で歌会(歌合)を行うというものです。本誌8ページで紹介している『人麿呂画像』も、

そうした「人麿影供」の本尊として使用されていたものでしょう。

歌合は、左右に分かれて歌の優劣を競う遊びで、平安時代以来盛んに行われてきました。今回出品する重要文化財《関白内大臣家歌合》は保安9年(1121)9月12日に関白藤原忠通の屋敷で行われた歌合の内容を、判者である藤原基俊が筆写したものです。こうした歌合での成績は、歌人としての評価や名声に関わるものでした。厳しい評価にさらされる歌人たちにとって、人麿の存在は精神的な支柱となり、崇拜の対象となっていたのです。



重要文化財《関白内大臣家歌合》(部分) 個人蔵

前田育徳会尊経閣文庫分館

実資が記した『小右記』と源氏物語の世界

8月23日(土)～10月5日(日) 会期中無休

『小右記』は、平安時代中期に右大臣をも務めた藤原実資(957～1046)の日記です。原本は残っていませんが、前田育徳会が所蔵する甲巻(32巻)はもっとも早い写本とされ、寛和元年(985)から長元元年(1028)の出来事が記録されています。今号では展示する6巻のうち、甲巻一、甲巻三、甲巻四、甲巻九の4巻を紹介します。

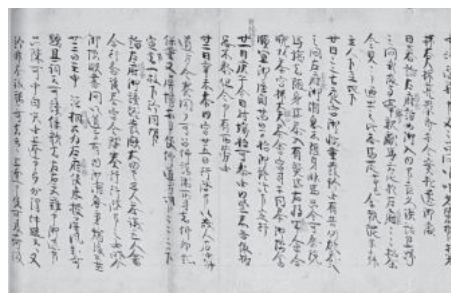
甲巻一には、寛和元年の正月10日、花山天皇が弘徽殿を訪ねた時に行われた小弓の儀と作文会について記されています。実資は読師という詩が書かれた紙を整理する役を務めたようです。

甲巻三には、長徳元年(995)5月11日に、藤原道長に関白の詔が下ったことが記されています。4月11日には藤原道隆が亡くなり、後継者とされたのは

伊周でしたが、同月24日に関白に選ばれたのは、道兼でした。しかし、道兼は間もなく没したことにより、道長による政権が誕生したのです。

甲巻四では、長保元年(999)10月19日、実資は道長をたずね、道長長女の彰子の入内について詳細を聞いたことが記されています。その日、道長の機嫌はよく、実資は帰りに献上されたばかりの馬一疋を、道長から譲り受けたのです。

甲巻九には、道長の娘で三条天皇の中宮となった妍子がしきりに宴を催していることへの苦言と、慎ましい彰子による饗宴の取りやめについて記されています。こうした事情を、実資は紫式部から聞いていたことがええます。



『小右記』甲巻四

近現代絵画・彫刻(第3・4・6展示室)

優品選

8月23日(土)～10月5日(日) 会期中無休

第6展示室の日本画分野から、小特集「月」をご紹介します。今回は様々な姿の月をご覧いただきたいのですが、趣向を凝らしているのが紺谷光俊筆《秋宵》です。2曲屏風の第2扇(左側)に向こうを向いた白狐を描きます。第二扇(右側)に開けた円窓を月に見立て、簾をはめています。その上に描かれた薄が秋の風情を感じさせます。

第3展示室では版画、油彩画分野をご紹介します。日本の版画は戦後すぐに各国での美術展、国際版画展で数多くの作品が続々と受賞の栄誉に輝き、日本の版画の地位を不動のものにしました。脇田和のリトグラフ、横尾忠則や菅井汲のシルクスクリーンなど、版画の技法と表現も版種ごとに日本独自の版画世界を築き上げていった作品の数々をご覧ください。

油彩画からは石川県ゆかりの作家・田辺栄次郎の《リヨンの丘》を取り上げます。南仏リヨンの緑豊かな景色を丘の上から望む視点で描いています。一見現実をそのまま写生したように見えますが、現地で描いたスケッチを作者の構図法にかなうよう再構成して描かれており、作者のフィルタ越しに描かれる風景画には、人物が描かれていなくともその地で生活する人の営みやぬくもりが感じられます。

彫刻分野からは、木村珪二《ブルドッグ》をご紹介します。どっしりと座り、こちらをじっと見つめる肉付きのよい姿は、存在感にあふれています。犬を多く制作した木村珪二ですが、今回は本作以外にも3点の「犬」作品を展示しています。さまざまな犬の姿をお楽しみください。



田辺栄次郎 《リヨンの丘》

近現代工芸(第5展示室)

特別展示 みんなでたのしむびじゅつかん
おおきい・ちいさい

7月5日(土)～10月5日(日)

今回は2期に渡り開催となります特別展示「みんなであたのしむびじゅつかん おおきい・ちいさい」。親子で楽しむ美術館として夏休み中に親子で美術館に訪れて作品を見ることを楽しんでいただきたいと、こどもの目線を意識してはじまった特集展示でしたが、子どもだけでなく、親子だけでなく、様々な人々に身近なテーマで作品鑑賞を楽しんでいただきたく、「みんなであたのしむびじゅつかん」に冠も新しくなってお届けしております。

今回の特集は「おおきい・ちいさい」。壁面ケースには大きい作品を中心に、移動ケースは向かって左が大きい作品の列、右が小さい作品の列となっています。展示室奥には普段ケース内で展示している銅鑼^{どら}をケースの外に展示し、作品から感じる迫力や色合

い、雰囲気より楽しんでいただけるようにしました。

銅鑼は出船時や茶の湯の合図で使われてきたもので、金沢では、茶道の普及に伴って制作されるようになりしました。打楽器の部類に入るので、工芸品としての姿の美しさはもちろんですが、音質が大変重要になります。また、どちらの銅鑼にも材料とされている砂張^{さば}とは、銅と錫の合金で、扱いが難しいとされています。今回、金岡宗幸《砂張銅鑼》、三代魚住為楽《砂張銅鑼》の2点を展示しましたが、展示室では三代魚住為楽の砂張銅鑼の音を流しております。作品の美しさを感じると共に、銅鑼の深く余韻のある音もお楽しみください。



三代魚住為楽 《砂張銅鑼》

9月の行事予定

■のびのび鑑賞デー

作品について感じたこと、思ったことを、お話ししながらコレクション展を楽しめる日です。

※ただし、通常の開館日のお客様同士の会話を制限するものではありません。

日時：9月14日(日)9時30分～18時

(展示室への入室は17時30分まで)

会場：2階コレクション展示室

*のびのび鑑賞デーのご利用に、特別な手続きは不要です。

■対話で！作品鑑賞会

対話をしながら、作品鑑賞を行います。作品への知識はいりません。よく見て、おしゃべりしながら、ゆっくりと美術館で過ごしてみませんか？

日時：9月14日(日) 11時～11時30分 *申込不要

集合場所：2階 コレクション展示室前

定員：10名程度(先着)

料金：要コレクション展観覧料

*友の会会員のみなさまは、会員証のご提示で無料

■土曜講座

9月20日(土)「歌仙絵の世界」 講師：中澤菜見子(学芸主任)

9月27日(土)「みんなでたのしみびじゅつかん スライドトーク
ちょっとこぼれ話」

講師：西ゆう子(普及課長)

日時：各日13時30分～15時

会場：当館講義室

*聴講無料、申込不要

■「北斎・広重 大浮世絵展」関連行事

※行事情報は本誌2頁をご参照ください。

展覧会回顧

加賀につづいた琳派 宗雪・相説 —宗達と光琳のあいだに—

4月26日(土)～5月25日(日)

今からちょうど50年前の春、当館の前身である石川県美術館にて「宗雪・相説展」が開催されました。この展覧会により、俵屋宗達ののちに活躍した「そうせつ」という人物が、俵屋宗雪と喜多川相説という二人の絵師であり、宗雪は加賀藩の仕事を請け負っていたことなどが明らかとなりました。二人の「そうせつ」の基本となる作品を集め、同一人物とも思われていた二人を別人と位置付けたこの昭和50年(1975)の展覧会は、いまなお高く評価されています。

今回、令和7年(2025)の「宗雪・相説展」は、加賀ゆかりの絵師でありながら、いまだ県内でもよく

知られているとは言い難い二人の「そうせつ」を、新たな作品や五十嵐派蒔絵との関係という視点を加えて、改めてご紹介しようとするものでした。アンケートでは、琳派が北陸ともつながっていたとは知らなかった、というお言葉もあり、「宗雪・相説」を知っていたかどうかという目標を、少しは達成できたのではないかと思います。

50年前の展覧会のリバイバルを通して、石川県立美術館の歴史を引き継ぎ、更新していくことの重要性も感じました。これからも、地域の芸術文化の拠点として、みなさまに美とふれあう新鮮な感動の場を提供していく所存です。

新コンテンツ「デジタルお土産」



3D映像



二次元バーコード

来館者にご好評をいただいている1階ロビーのデジタルコンテンツ「美術とあそぶ」に、今年度より新しく「デジタルお土産」が加わりました。モニターのかたわらに古美術から近現代まで9点の工芸作品カードがあります。カード裏面の二次元バーコードをお手持ちのスマートフォンで読み取ると小さな3D映像が現れ、指で回してさまざまな方向から見ることが出来ます。美術館のモニターで見た工芸作品を、ご自宅でもお楽しみください。



会場風景

ミュージアムレポート

友の会限定バックヤードツアー

知っているようで意外と知らない、美術館の裏側を見ることが出来るバックヤードツアーでは、日々学芸員や美術館職員が作品の保全や展示をおこなうためにしているさまざまなことをご紹介します。

美術館の持つ4つの役割である①調査・研究 ②展示 ③保存 ④教育・普及のうち、③保存に関するを中心として学ぶツアーとなりました。

温湿度をはじめとして、美術館には作品を守るためにさまざまな機能や施設があります。また、展覧会をおこなうにあたってかせない展示作業に使用する機材や、展示する際に気をつけていることをご紹介いたしました。作品資料をより先の未来まで伝えていけるように、美術館ではたくさんの方の工夫を凝らしています。そういった試みや考え、実際に使用している特殊な機器を学芸員の解説とともに見学するツアーとなりました。

前回大変ご好評をいただいたことから、第2回を開催することができました。皆様のご協力もあり、大きなトラブルなく無事終えることができました。ご応募ならびにご参加いただき、誠にありがとうございました。いただいたアンケートを参考に、今後もお楽しみいただけますようイベントを企画してまいります。皆様のご参加をお待ちしております。



学芸室こぼれ話

西 ゆう子(学芸主幹兼普及課長)

「手放せない教科書」

学校教育との連携を仕事としてしていますので、年度の初めには県内の小中、一部高校の各地区で使用されている教科書の確認をします。これを持って児童生徒の皆さんにわかりやすくお話をする基準はどのあたりか、先生方との研修のどこかに役立てられないかと、自分なりにまずはの確認を行います。学校団体で作品鑑賞に来館される場合や、学校に伺って一緒に活動する場合は特に、ヒントにして使用する、私にとっては大切なアイテムとなっています。現在こども園から大学・専門学校までのみなさんが団体で来館いただけるようになりました。皆さんの反応を想像しながら、教科書片手に展示の準備、ワークシートの準備、さまざまな学校対応準備を行っています。



村上 尚子(学芸第一課学芸専門員)

「キーボードは二代目」

下取りにも出せなかった故人のiPad Pro。「ネット見るには便利かな」くらいで使い始めたところ、「Skype(当時)で子どもたちとすぐ連絡が取れる」「写真も動画もキレイに撮れる」しかも、「すぐに確認できるし、拡大もできるし、画面も大きい」と、かなり使い勝手がいい。そこで、カバーケースにもなるキーボードを買うと、「どこでも原稿が書ける!」と、仕事にも調査にも出張にも欠かせないアイテムに。

ただ、故人が撮影した写真もいっしょに残っているので、写真ファイルには、調査データと家族写真が混在しているという……。どちらも大切なのですが、懐かしい写真に、つい手が止まることも、しばしば。



〔参加者募集！〕

令和7年度 友の会ツアー

宮本雅夫先生と行く！五感で味わう九谷五彩の旅

以前よりご要望のありました作家との交流ができるプレミアムな旅が実現いたしました。昨年度の企画展「食を彩る工芸」に出品制作いただいた陶芸家の宮本雅夫先生が丸一日ご同行・ご解説くださるツアーです。生活とともに受け継がれた九谷焼を「知る・作る・使う」ことで、総合的に学べる機会となります。

開催日：令和7年10月19日（日）

集合場所：石川県立美術館正面玄関前

集合時間：9時※時間厳守

（16時頃同地帰着予定）

参加代金：友の会会員 18,000円

非会員 19,000円

募集定員：15名※応募者多数の場合は抽選

◆見学地

【九谷セラミック・ラボラトリー】

九谷焼がどのようにして作られるのか、陶石から絵付けまでを見学と体験で学びます。体験では、宮本先生が作品制作で実際に使用されている伝統的な九谷五彩の釉薬を使い、骨描き（線画）に絵付けする工程を、直接先生から教わりながら制作します。

【日本料理梶助】

昨年加賀料理を石川の食器でいただく「食談議」でも使用された小松の名店。作家が制作した食器に盛られたお食事をいただきます。

【九谷焼窯跡展示館】

現在の九谷焼に繋がる古九谷について学びます。国指定史跡である江戸時代後期の窯跡や近代の本焼窯を、宮本先生による解説とともに見学します。



宮本雅夫先生



宮本雅夫《緑彩真麗線文酒器揃》

◆申込方法

以下の内容を記載の上、往復はがきもしくはメールにてご応募ください。

※おひとり様1通まで。

※グループで参加されたい方は、1通のはがき・メールにまとめてご応募ください。

その場合は、下記内容を人数分ご記入ください。

※当日、医療従事者は同行いたしません。

《往復はがきの場合》

・往復はがき裏面に記載する事項

①「令和7年度友の会ツアー希望」

②氏名③年齢④性別⑤郵便番号⑥住所

⑦電話番号⑧会員番号（友の会会員のみのみ）

※返信用はがきの表面に返信先（ご自身の住所）を記載してください

※返信はがきの裏面には何も記入しないでください

※消えるボールペンは使用しないでください

《メールの場合》

件名：令和7年度友の会ツアー希望

本文：①氏名②年齢③性別④郵便番号⑤住所

⑥電話番号⑦会員番号（友の会会員のみのみ）

◆申込先

〒920-0963 金沢市出羽町2-1

石川県立美術館 友の会ツアー係

ishibi@pref.ishikawa.lg.jp

※メール送信後、1週間以内に返信がない場合はお電話にてお問合せください。

◆申込締切

令和7年9月19日（金）17時必着

《人麿呂画像》ひとまろがぞう

縦57.1 横36.4 (cm)
室町時代 15～16世紀

上置に座し、上方を仰ぎみる直衣姿の人物。右手には筆を持ち、手前に硯箱が置かれています。これは『万葉集』の代表歌人である柿本人麿（生没年不詳）を描く際の典型的な表現で、平安時代の歌人藤原兼房（1001～1069）が夢に見た姿を描きとどめさせたものに基づくとされています。上部には向かって左から「穂能保野兎／阿家師乃得楽乃／愛艸菰李西／志慢佳来麗喻玖／赴年位新所意茂府（ほのほのと／あかしのうらの／あさきりに／しまかくれゆく／ふねをしそおもふ）」という人麿の代表歌が、万葉仮名で墨書されています。

本作には古筆了仲（1656～1736）による極書が附属しており、それによると絵は土佐光信（1434～1525）、賛は伊藤仁斎（1627～1705）と鑑定されています。画像はたしかに土佐派の人麿像に似ますが、よく観察すると、絵の描かれている絹地に比べて絵具の状態が新しく、衣の線の処理があいまいであったり、本来料紙を持つているはずの左手が隠れていたりしています。また上部4分の1は別の絹地が継がれていることがわかります。人麿画像は「人麿影供」（＊本誌3ページにて解説）などで頻繁に使用されていたと考えられ、傷んだ画像に補修を加えてある可能性が高いでしょう。上部の賛は別絹を継いで新たに書かれたもので、落款を欠きますが、書風から伊藤仁斎の書とみても大過ありません。

ともあれ本作品は、人麿画像がしばしば使用され、数百年にわたって大切に受け継がれてきたことを示すものといえます。

次回の展覧会

令和7年10月10日(金)
～11月9日(日)
会期中無休

第3・4展示室	第6展示室	第5展示室
特別展示 戦後80年 石川の近現代美術 —再生と創造への挑戦— 【近現代絵画・彫刻】	優品選 【近現代絵画・彫刻】	うつわに描く 一色絵磁器の世界— 【近現代工芸】

前田育徳会
尊経閣文庫分館

第2展示室

香りにまつわる道具

石川県の文化財

ご利用案内

コレクション展観覧料

一般 370円(290円)

大学生 290円(230円)

高校生以下 無料

※()内は団体料金

9月1日は第1月曜日より

コレクション展観覧無料の日

開館時間

午前9:30～午後6:00

カフェ営業時間

午前10:00～午後6:00

9月は無休で開館しています

知識・経験ゼロから
デザインを学んで
在宅ワークを実現しませんか。

TRY IT, NOW.
Design Life

広告代理店が運営する **デザインスクール** 広告

キテンスクールの
オンライン授業なら…

- 1 オンラインで好きな時間に
マイペースで学べます
- 2 スキルアップ・副業・転職
独立・趣味に活かれます

詳しい資料の
ご請求はこちら

キテンスクール
〒569-0071 高槻市城北町1丁目14-17
tel:072-668-3275
運営/株式会社ウィット

石川県立美術館だより
第503号(毎月発行)
2025年9月1日発行〒920-0963
金沢市出羽町2番1号
Tel:076(231)7580
Fax:076(224)9550
URL <https://www.ishibi.pref.shikawa.jp/>石川県立美術館は電源立地地域対策
交付金を活用して運営しています。